



日本音楽教育学会ニュースレター 第96号

目次

1 学会からのお知らせ

1. 第25期から第26期, そして未来へ…………… 榎藤 敦子 2
2. 第26期(2024・2025年度)役員一覧・委員一覧…………… 3
3. 第55回大会(玉川大学)のご案内(第1報)…………… 野本由紀夫 4
4. 第18回音楽教育ゼミナール:データの扱いを学んで, 査読に通る論文を書こう
…………… 小川 容子・榎下 達也・菅 裕・山下 薫子 5
5. 教科教育学コンソーシアム報告…………… 伊藤 真 5
6. 編集委員会からのお知らせ…………… 今川 恭子 6
7. 国際交流委員会からのお知らせ: ISME 2024, 世界会議と8つのセミナーについて
…………… 今田 国彦 7
8. 資料の保存・アーカイブ化WG(2022/2023年度)報告
—「公共財」としての有効活用に向けて—…………… 杉江 淑子 8

2 音楽教育の窓

1. 2024年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報…………… 9

3 会員の新刊・近刊等紹介…………… 10

4 報告

1. 2024年度日本音楽教育学会 第1回常任理事会…………… 11
2. 2024年度日本音楽教育学会 第1回理事会…………… 12

5 事務局より…………… 17

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1. 第25期から第26期、そして未来へ

第26期日本音楽教育学会会長 榎藤 敦子（広島大学）

突然のコロナ禍に見舞われた2020-2021年度の大変な時期に、日本音楽教育学会の第24期は何一つ歩みを止めることなく、本部役員、委員、大会実行委員会、事務局が一体となって、オンラインでの第51回大会、第52回京都大会をはじめとして、2年間果敢に学会運営に取り組んでこられました。そうして築かれた学会組織をしっかりと引き継がせていただいた第25期（2022-2023年度）は、本学会が日常を取り戻し、未来に向けて希望を膨らませていく2年間だったように思います。

2022年の第53回東京大会は、5月まで決断を遅らせて最終的に対面での実施を断念しましたが、オンラインにもかかわらず約500名の参加者を得て、音楽によるライブ感あふれる大会を実現していただきました。2023年2月には、国際交流委員会の尽力によりZoomによる画期的な日韓実践交流会が実現し、日韓双方からのICTを活用した音楽教育実践発表と相互交流をすることができました。そして、10月、第54回弘前大会では、待ち望んだ4年ぶりの対面での大会が実現されました。あちこちで久々の再会を喜び合う声を聴くとともに、発表会場内外でともにじっくり語り合うことができました。ワークショップ、ゼミナール、各地区の例会等も、それぞれ工夫をしながら開催されました。

学会の運営業務についていえば、テレワークを余儀なくされていた事務局も2023年4月から対面での業務を再開し、新しい名簿の発行、Webサイトの充実、メール・リストによる連絡網の整備、電子化・デジタル化を活かした業務改善等、会員の皆様の利便性や学会の持続可能性を高める努力を続けています。2023年実施の選挙では選挙管理委員会の尽力で電子化に大きく舵を切ることができました。申込Webサイトでは今年度から新たにクレジットカードによる会費納入も可能になり、第55回大会の準備も、開催校を引き受けてくださった玉川大学と連携しながら着々と進んでいます。加えて、会員の皆様の多様な研究や実践をサポートすることができるよう、倫理ガイドブックの改訂、海外の検索プラットフォームへの学会誌2誌の収録等、学会活動の基盤も整備されてきました。

第26期（2024-2025年度）は、新たに学会企画研究「生活史の中の音楽と音楽教育」に取り組むことが計画されています。これは、第25期の2年間にわたって常任理事会企画として取り組んできたプロジェクト研究がその萌芽となり、社会的・歴史的背景の中で生きる人々にとっての音楽と音楽教育の意味と位置付けを、量的・質的な研究とその往還を通して明らかにしようとするものです。第25期における「資料の保存・アーカイブ化WG（ワーキンググループ）」によって本学会の調査データの蓄積と有効活用の道筋がつけられたこと（詳しくは本誌8ページの報告参照）が、過去と未来をつなぐ重要な鍵となりました。日本音楽教育学会だからこそできる音楽教育研究の振興と音楽教育活動の発展への貢献を実現するためにも、会員の皆様の研究・実践の展開を支えられる学会であるためにも、学会企画研究への取組を通して、データの蓄積と研究の両輪を駆動していく体制を整えていきたいと思えます。

第25期から第26期、そして、未来へと、膨らませてきた希望を実現させるべく、本学会が会員一人一人にとって有意義な場となるように力を合わせて取り組んでまいります。皆様とともに学会活動を推し進め、未来につないでいきたいと思えます。お届けする情報やお知らせ、Webサイトの新着情報やデータベースをご確認いただき、ぜひ、奮って日本音楽教育学会の活動にご参加ください。

2. 第26期（2024・2025年度）役員一覧・委員一覧

2024/4/21 現在

	氏名 (所属等)	選出地区	担当
会長	榎藤 敦子 (広島大学)	中国四国	
副会長	有本 真紀 (立教大学)	関東	
事務局長	本多佐保美 (千葉大学)	関東	
常任理事 (9名)	伊野 義博 (新潟大学)	北陸 ○	総務
	今川 恭子 (聖心女子大学)	関東	編集
	今田 匡彦 (弘前大学)	東北 ○	国際
	小川 容子 (岡山大学)	中国四国	企画
	菅 道子 (和歌山大学)	近畿	事務局
	菅 裕 (宮崎大学)	九州 ○	企画
	寺田 貴雄 (北海道教育大学)	北海道 ○	会計
	中嶋 俊夫 (横浜国立大学)	関東	広報
	水戸 博道 (明治学院大学)	関東	総務
理事 (9名)	檜下 達也 (京都教育大学)	近畿	企画
	阪井 恵 (明星大学)	関東	
	高見 仁志 (佛教大学)	近畿 ○	
	中地 雅之 (東京学芸大学)	関東 ○	
	西島 央 (青山学院大学)	関東	編集
	長谷川 慎 (静岡大学)	東海	会計
	松永 洋介 (岐阜聖徳学園大学)	東海 ○	
	三村 真弓 (エリザベト音楽大学)	中国四国 ○	
	山下 薫子 (東京藝術大学)	関東	企画
会計監事	伊藤 誠 (桐朋学園芸術短期大学) 杉江 淑子 (滋賀大学)		

○は地区担当理事

編集委員会 (13名)	疇地 希美 今川 恭子 川口 明子 梶川 祥世 桐原 礼 木間 英子 清水 稔 杉田 政夫 田中 里佳 長井 覚子 西島 央 林 睦 山本 耕平
国際交流委員会 (5名)	◎今田 匡彦 ○金 奎道 高須 裕美 森尻 有貴 山本 華子
広報委員会 (5名)	上野 智子 ◎笹野 恵理子 鈴木 慎一朗 中嶋 俊夫 長山 弘
選挙管理委員会 (5名)	塚原 健太 三橋 さゆり ○村上 康子 ◎山内 雅子 山本 幸正
参事 (1名)	松本 哲平
倫理ガイドブック編集委員会	小田 直弥 榎藤 敦子 杉田 政夫 西島 央 船越 理恵

◎は委員長 ○は副委員長 ※未記入の委員会は選出中

本学会から選出の委員

音楽文献目録委員会 (4名)	磯田 三津子 大田 美郁 駒 久美子 橋本 久美子
教科教育学コンソーシアム	(担当理事・研究推進委員) 伊藤 真 (編集委員) 高橋 雅子 (研究推進委員) 森 薫

3. 第55回大会（玉川大学）のご案内（第1報）

大会実行委員長 野本 由紀夫

第55回大会は2024年10月19日（土）、20日（日）の両日、東京では5年ぶりに、町田市にある玉川大学で開催されることになりました。今回の実行委員会企画のテーマは「音楽科教員の現状と教員養成のこれから：AI時代の音楽・教育」です。ここでの「AI時代」という表現は、あくまでも「現状」「これから」を象徴するキーワードにすぎません。もちろん、個別の研究発表のなかには「AIと音楽教育」を扱う方も多く予想していますが、シンポジウムのタイトルを「音楽教育」とせず、「音楽・教育」としたのは理由があります。

すなわち、人間にとっての「音楽」そのものや、音楽に限らず「人間教育」の在り方が根本的に問われる時代の転換点に置かれている、と考えたからです。2022年秋に生成AIのChatGPTが登場して以来、AIの進化の速度は予想をはるかに上回っており、社会生活にも大きな影響を与えています。生成AIはこれからの世代の仕事、つまり「人間の生き方」にも変更を迫ってくるでしょう。

たった1台のPCが全人類の能力を超える、いわゆる「シンギュラリティ」（レイ・カーツワイルの唱える「知的特異点」）の到来が、かつては2045年と予想されていましたが、昨今の状況からX（旧Twitter）のイーロン・マスクなどは「2030年には到達する」と危機感を表しました。もともと2030年には「プレ・シンギュラリティー」（社会的特異点）が到達すると考えられていたので、それ以上に社会が急速に変わりつつあります。おそらく学習指導要領も、新しい視座と対応を求められるでしょう。

はたして「音楽創造」は人間にしかできないことなのでしょうか。なぜ人間は音楽を創作し、演奏し、受容するのでしょうか。AIを前にして、これらの根源的な問いが「音楽教育の在り方」、さらにはそうした時代状況に立ち向かうための「教員養成」の問題に直結することは疑いないでしょう。

実行委員会ではシンポジウムに先立ち、「全人教育」の専門家である小原一仁玉川大学学長に基調講演をお願いしました。シンポジウムではプログラム順に、高橋詩穂（京都教育大学附属桃山小学校）、阿部みどり（東京都杉並区立杉之森中学校）、櫻井 寛（埼玉県立浦和高等学校・埼玉県高等学校音楽教育研究会代表理事）の現役教諭の先生方に加え、STEAM教育に造詣の深い芳賀 均（北海道教育大学旭川校教育学部／へき地・小規模校教育研究センター准教授）、音楽大学における教員養成の問題については市川 恵（東京藝術大学准教授）、幼児教育に関しては伊原小百合（玉川大学教育学部乳幼児発達学科講師）、最後に行政の立場から河合紳和（文部科学省教科調査官）の各先生方にご登壇いただきます。司会は、実行委員長の野本です。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

【日程表】（暫定）

10月 19日 (土)	9:30	13:00		13:50	14:10	14:20	16:20		16:40	17:40		18:00-	
	研究発表Ⅰ (口頭発表)		昼 休 憩	開会式／ 基調講演／ 講演・問答・映像		休	実行委員会企画 (シンポジウム)		休	総会		休	情報交換会
	ポスター発表Ⅰ			教育博物館展			演奏会						

10月 20日 (日)	9:00	12:30		13:20	15:00		15:10	16:40
	研究発表Ⅱ (口頭発表)		昼 休 憩	常任理事会企画 (プロジェクト研究)		休	共同企画Ⅱ	
	院生フォーラム ポスター発表Ⅱ			共同企画Ⅰ				

4. 第18回音楽教育ゼミナール：データの扱いを学んで、査読に通る論文を書こう

企画担当理事 小川容子・樫下達也・菅 裕・山下薫子

日 時：2024年8月24日（土）10時～17時（オンライン開催）

講 師：中村康則氏，周景龍氏（SCREEN ホールディングス）

参考文献：『動かして学ぶ！はじめてのテキストマイニング』

*受講を希望される方は、学会ホームページ（<https://日本音楽教育学会.com>）からお申し込みください。当日のアドレス等を別途お知らせします。

論文がなかなか査読に通らないというのは、決して珍しいことではありません。とはいえ、投稿した論文がリジェクトされるのはあまり気持ちの良いものではありません。そこで第18回音楽教育ゼミナールでは、しばしば、リジェクトの原因の一つにあげられる「データの扱い」に焦点を当ててみました。面白いアイデアなのに、データとうまくリンクしていないなあ……データの解釈が独りよがりだ……もう一捻りすれば、興味深い実験データが得られたはずなのに……。こうした査読者たちのつぶやきに耳を傾けながら、自身が集めたデータを見直してみませんか。

午前の部では、学会員によるKH Coderを活用した研究交流を行い、研究成果に関する情報発信・共有をいたします。午後の部では、お二人の講師による講演と演習を行います。質疑応答もあります。KH Coderはフリーソフトですので、使用されている皆様も多いと思います。使用中に感じた疑問や戸惑い、質問等、いろいろな意見交換をしてみましょう。

5. 教科教育学コンソーシアム報告

教科教育学コンソーシアム担当理事 伊藤 真

教科教育学コンソーシアムは教科教育に関連する14の学協会が加盟した団体で、国内外における研究と実践の交流を通して教科教育とその研究の発展を期することを目的としています。毎年3月に研究推進委員会の研究成果発表として教科教育学コンソーシアムシンポジウムを開催しており、2024年3月10日（日）に第4回シンポジウム「教科教育学研究のメソドロジ—私たちは何のために何をどのように研究しているか—」がハイフレックスにて行われました（対面は一橋講堂第3・4会議場）。

各教科・領域には独自の（主流の）研究方法論がある一方で、それらを横断する視点もあります。教科教育学コンソーシアムがめざす「各教科・領域の共通性」を見出し、「各教科・領域を架橋した対話」を実現するためには、比較考察が不可欠となります。今回のシンポジウムの前半では、ドイツ語圏の31の諸教科の学協会が加盟する教科教授学学会における「一般教科教授学」の動向について、オスナブルク大学名誉教授のH. J. フォルマー氏とウィーン大学教授のM. ロートガンゲル氏による基調講演が行われました。各教科のメタ理論としての一般教科教授学を学問として成立させることの重要性が示されました。また、シンポジウム後半では、加盟学協会の学会誌掲載論文における研究方法論の分類枠組みの検討、および研究方法論の傾向と課題について、社会科、地理教育、数学科、家庭科、国語科、体育科、道徳（科）の分析結果に基づく報告がなされました。各教科には内容に沿った特有の研究手法があることが示唆されるとともに、各学協会に共通して「実践・開発」と「実証・経験」的研究が多く占めることが見出されました。

6. 編集委員会からのお知らせ

編集委員会 今川 恭子

第26期編集委員会がスタートしました。学会誌が会員の研究発信の場として充実したものになるよう、委員一同努めて参ります。「投稿してもなかなか掲載されない」という声を聞くことがあります。委員会の基本的姿勢は投稿原稿の欠点を探すことではなく、光るものを見つけることだと考えます。光りは音楽教育への熱い思いから生まれます。特定の分析ツールや方法論のマニュアル通りに形式化された文章を書いても、創造的な思考には繋がりません。音楽教育への熱い心が伝わる意欲的で創造的な投稿をお待ちします。13名の委員のメッセージをお届けします。

氏名	研究分野	メッセージ
あぜち のぞみ 疇地 希美	幼児音楽教育, 保育者養成教育	ヒトと音楽の関わりをさらに豊かにするような発見や研究と出会えることを楽しみにしています。
いまがわ きょうこ 今川 恭子	乳幼児期を起点とした音楽学習と発達, 授業研究	人が音楽を学ぶフィールドに立ち, 実践, 観察, 聞き取りすることが研究の中心です。他分野と連携しながら生涯にわたる音楽の学びを見つめていきたいと思っています。
かじかわ さちよ 梶川 祥世	乳幼児の音声知覚, コミュニケーション発達	人と人をつなぐ音楽の力について, 発達心理学を軸として多角的に考えていきたいと思っています。
かわぐち あきこ 川口 明子	インドネシア・スダ(西ジャワ)音楽の研究と演奏, 民族音楽学と音楽教育	インドネシアのガムラン音楽文化を中心に「世界の音楽」の教材化に取り組んできました。「多文化共生」が標榜される今, 人と「音・音楽」の関わりについて改めて考えています。
きはら あや 桐原 礼	多文化教育, スペインの音楽教育	音楽科における異文化理解, 学校や社会における多様性の包摂に関心があります。
このま えいこ 木間 英子	音楽教育思想史	多様化するテーマにどこまで柔軟な思考をもって向き合うことができるか, 自分を鍛えるよい機会をいただいたと思っています。
しみずみのる 清水 稔	哲学に基づく創造行為の理論化	人と音楽の関係を存在論の見地から捉えることで, 諸問題の要因となる契機を明らかにすることを研究しています。皆様, どうぞよろしくお願いたします。
すぎた まさお 杉田 政夫	音楽教育の歴史と哲学, コミュニティ音楽療法	主張やインパクトのある理論的・実践的研究の投稿を楽しみにしております。
たなか りか 田中 里佳	教育方法, 教師の力量形成	教師個々に特有の授業デザインや指導の方法について, その力量形成の過程から解き明かしていく研究を行っています。
ながい さとこ 長井 覚子	音楽教育史, 乳幼児期の音楽表現	「乳幼児期の音楽表現の育ち」の「現在・過去・未来を見つめる」ことをテーマに, 近年は領域「音楽リズム」時代の実践史研究に取り組んでいます。
にしじま ひろし 西島 央	教育社会学, 音楽教育の歴史社会学	学校で音楽をはじめ文化を学ぶことを通して, どのようにある社会集団の一員として社会化されていくのかということに関心をもっています。
はやし むつみ 林 睦	アウトリーチ, 特別支援教育と音楽	人間と音楽の本質を見つめていきたいと思っています。最近では障がいのある子どもたちから多くを学んでいます。
やまもと こうへい 山本 耕平	戦後の音楽教育史	最近では戦後の家庭教育における音楽の位置付けに関心があります。どうぞよろしくお願いたします。

7. 国際交流委員会からのお知らせ：ISME 2024, 世界会議と8つのセミナーについて

国際交流委員長 今田 匡彦

2024年7月28日から8月2日、ISME (International Society for Music Education) 第36回 World Conference がヘルシンキのシベリウス・アカデミーにて開催されます。今回のテーマは、”Advocacy for sustainability in music education”つまり〈持続可能な音楽教育の提唱〉といった感じでしょうか。公正性、包摂性、そして生態系の持続可能性が、音楽教育という文脈で語られることはあまりなかったような気がする（あるにはあったが目立たなかった）ので、とても今日的なテーマかと思います。資本主義経済下、洗練された商品として流通する「音楽」と音楽教育は実はあまり関係がないことに、そろそろ音楽教育者たちは気づくべきなのでしょう。さて世界会議に先立ち、8つの Pre-Conference Seminars: Community Music Activity Commission (CMA), Early Childhood Music Education (ECME), Education of the Professional Musician Commission (CEPROM), Instrumental and Vocal Music Teaching Commission (IVMTC), Music in Schools and Teacher Education Commission (MISTEC), Policy Commission, Research Commission, Special Music Education and Music Therapy Commission がそれぞれ開催されます。今回の世界会議のテーマに逆行するようなコミッションもあるような気も多少しますが、ショーケース的なメイン・カンファレンスと異なり、少人数による親密な研究交流が可能なのがセミナーの醍醐味です。詳細は以下のサイトにて：

[36th ISME World Conference returns to Helsinki | ISME - International Society for Music Education](https://www.isme-commissions.org/)
[ISME Commissions - Isme Commissions home \(isme-commissions.org\)](https://www.isme-commissions.org/)



8. 資料の保存・アーカイブ化WG（2022/2023年度）報告

—「公共財」としての有効活用に向けて—

資料の保存・アーカイブ化WG（2022/2023年度）座長 杉江 淑子

1987年、本学会に設置されていた教育課程研究推進委員会によって、「小・中学生の生活と音楽に関する調査」が実施された。調査対象は東京都内小学校5校、中学校1校の小学校5年生～中学校3年生、回収数は1000部余りである。「本調査」に先駆けた「予備調査」の位置づけであったが、諸事情で本調査は実施されていない。この予備調査の集計・分析に関わった筆者が保管していた回収調査票の扱いについて今川前会長に相談したのが本WGの発端であった。前会長から榎藤会長に「学会調査資料の保存・活用について検討するWGの設置」が引き継がれて、榎藤会長の委嘱により本WGが発足、2022～23年度にかけて検討と作業を行った¹⁾。WGの目的は、(1)学会が過去に実施した調査資料/データの有効活用に向けた保存方法の検討、(2)保存可能な資料の保存作業の2点である。

調査の個票データは、個人情報保護の観点から慎重に取り扱うべきことは言うまでもない。一方で、回答者を含む調査協力者一人一人に思いを馳せるならば、一度集計・分析をして終わりとするのではなく、データを学会の「公共財」として蓄積し、今後の教育・研究の発展のために有効に活用する道筋をつけておくことが望まれる。データアーカイブを組織的に進めている東京大学 CSRDA²⁾のSSJDAは、データアーカイブの意義として、個票データの二次分析による新しい研究の可能性に加え、多数の調査関係者の努力と協力による成果を有効活用することは調査対象者への責務であり、調査を受ける人の負担を減らすことにも貢献すると述べる (<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/infrastructure/ssjda/>)。

本WGにおいても、統計的な調査について個人が特定されない形で個票データを保存し、二次分析に供することのメリットは大きいと考え、本学会が過去に実施した質問紙調査の個票データ復元や確認作業を行い、調査のメタ情報（調査目的、対象者、サンプリング方法等）を付し、それぞれ一式のセットとして学会事務局に保管するまでの作業を行った。事務局に保管した調査は、最新の調査を含め、以下の4件である。

- ①1987年「小・中学生の生活と音楽に関する調査」（教育課程研究推進委員会）
- ②2015年「音楽科の授業内容と児童の意識に関する調査」（会長諮問プロジェクト）
- ③2015年「学習者アンケート」（Webアンケート）（音楽教育実践ジャーナル vol.13-2）
- ④2023年「小・中学生の生活と音楽に関する調査」（2023年度プロジェクト研究）

このうち①のデータは、昨年度のプロジェクト研究において、1987年と2023年の2時点間比較に活用された。今後も保管データが角度を変えて分析され、有効活用されることを願うと同時に、学会が実施主体となる新たな調査研究については、調査実施後の資料/データの保存・公開を視野に入れて計画することが必要と考える。質問紙調査等の量的データは回答者が特定されない個票データとして保存すること、インタビュー調査は文字起こし記録をインタビューーに確認し、公開の了承を得た上で保存することが原則となる。今後の課題としては、動画等の視聴覚資料の保存、及び保存資料の会員への公開方法についての検討が残されている。これらの課題については次期のWGに委ねたい。

1) WGのメンバーは、杉江の他、榎下達也、嶋田由美、塚原健太、山下薫子の5名（敬称略）

2) 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター

2 音楽教育の窓

1. 2024 年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報

5月25日(土) 音楽教育史学会第37回大会
場所：東京学芸大学 URL： https://note.com/os_phd/n/ne2a45aaf392c
6月8日(土)・9日(日) 日本音楽知覚認知学会 2024 年度春季研究発表会
場所：神奈川大学横浜キャンパス URL： 研究発表会 日本音楽知覚認知学会 (jsmpc.org)
6月22日(土)・23日(日) 日本音楽表現学会第22回(ハッカスの宴)大会
場所：山梨大学甲府西キャンパス URL： www.music-expression.sakura.ne.jp/meeting/meeting-top.html
7月6日(土)・7日(日) 日本カリキュラム学会第35回大会
場所：筑波大学筑波キャンパス URL： カリキュラム学会 (jscls-info.jp)
7月28日(日)~8月2日(金) 36th ISME World Conference
場所：ヘルシンキ URL： https://www.isme.org/events/36th-isme-world-conference-returns-helsinki
8月17日(土)・18日(日) 日本コダーイ協会全国大会 2024 in YOKOHAMA
場所：ワークピア横浜, 横浜みなとみらいホール URL： http://kodaly.jp/category/convention/
8月22日(木)・23日(金)・24日(土) 全国大学音楽教育学会第39回全国大会(福岡大会)
場所：西南学院大学 URL： https://www.nacome.com/
8月23日(金)・24日(土)・25日(日) 日本赤ちゃん学会第24回学術集会
場所：東京大学伊藤国際学術研究センター URL： https://www2.jsbs.gr.jp/SCIENCE/index.html
8月24日(土) 音楽学習学会第20回研究大会
場所：埼玉大学 URL： https://jsml.jp/press
8月24日(土)・25日(日) 日本学校音楽教育実践学会第29回全国大会
場所：広島女学院大学 URL： https://www.27ongakujissen.com/
8月29日(木)・31日(土)・9月1日(日) 日本教育学会第83回大会
場所：名古屋大学東山キャンパス&オンライン開催 URL： www.jera.jp/20231219/
9月15日(日) 幼児音楽研究会研究大会
場所：京都教育大学 ハイフレックス方式 URL： https://youonken.com/
9月21日(土)・22日(日) 日本教師教育学会第34回研究大会
場所：島根大学松江キャンパス URL： https://34th.jsste.jp/
9月27日(金)・28日(土)・29日(日) 日本音楽療法学会第24回学術大会
場所：札幌コンベンションセンター URL： https://www.jmta.jp/
9月28日(土)・29日(日) 教育史学会第68回大会
場所：東京学芸大学 URL： http://kyouikushigakkai.jp/
10月10日(木)・11日(金) 全日本音楽教育研究会全国大会旭川上川大会
場所：旭川市民文化会館 URL： https://onkan-web.net/study/2024/2024_conference.html
10月13日(日)・14日(月・祝) 日本教育方法学会第60回大会
場所：北海道大学 URL： https://www.nasem.jp/59th-meeting/
11月9日(土)・10日(日) 日本教科教育学会第50回全国大会
場所：筑波大学 URL： https://jcrda.jp/
11月9日(土)・10日(日) 日本音楽学会第75回全国大会
場所：静岡文化芸術大学 URL： www.musicology-japan.org/activity/convention/index
12月14日(土)・15日(日) 日本民俗音楽学会第37回出雲大会
場所：佐太神社, 松江テルサ他 URL： http://s-jfm.org/
2025年1月12日(日) 初等教育カリキュラム学会第9回学会大会
場所：広島大学東広島キャンパス URL： https://seec-web.com

3 会員の最新刊・近刊等紹介

★關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著／緒方満他著『レリバンスの構築を目指す令和型学校教育』風間書房 2024/3/9 A5判・410頁 ISBN：978-4-7599-2505-0 [本体3,800円＋税]

ますます複雑・多様化していく学校教育の課題として、マネジメント研究、授業デザイン、授業方略、新たな開発視点、教師教育などの鍵概念を示して、レリバンスの構築を目指す令和型学校教育のあり方を提案している。

★深見友紀子・小林田鶴子著『この一冊でわかる楽典と音楽実技―保育士、幼稚園・小学校教諭を目指す人のために―』音楽之友社 2023/3/31 B5判・112頁 ISBN：978-4-276-10052-7 [本体1,980円(税込)]

最新の採用試験の実情に合わせた、『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』の刷新版。大学の授業でも使える楽典と、動画のURLやQRコードを掲載した実技対策など、音楽初学者から活用できるテキストとなっている。



ニュースレターでは「会員の最新刊・近刊等紹介」「会員の声」への皆様のご投稿をお待ちしております。書籍、CD、DVDなどのリリースの情報がありましたら、基本的な書籍情報、音源情報に加えて「である調」90字程度の紹介文をお送りください。

投稿先アドレス☞(半角)onkyoiku@remus.dti.ne.jp



ML 配信試行に関わるお願い

～マイページの登録情報をご確認ください!～

現在、地区例会案内やNLのML配信に向けて、会員のみなさまに下記のことをお願いしております。

- ①マイページに登録してあるメールアドレスをご確認ください。こちらが学会MLの配信アドレスになります。
- ②携帯のキャリアメールを使っている場合は、メールが届かない可能性がございます。PCメールに登録・修正をお願い致します(推奨)。
- ③学会MLが迷惑メールフォルダーに入っていないかご確認ください。



4 報告

1. 2024 年度 日本音楽教育学会 第 1 回常任理事会

日 時：2024 年 4 月 21 日（日）10:30～12:15

場 所：聖心女子大学マリアンホール内ブルー・パーラー

出 席：権藤 有本, 本多, 伊野（記録）, 今川, 今田, 小川, 菅道子, 菅裕, 寺田, 中嶋, 水戸

開会に先立ち、権藤会長より、昨年度までの学会活動の成果と今年度に向けた研究及び活動の推進について挨拶が述べられた。なお、理事会と重複する審議事項・報告の一部は省略して進められた。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について（本多）

新入会員（正会員）15 名、申出退会（正会員）34 名、2024 年 5 月末に 2 年未納だった場合、2023 年度をもって自然退会者となる正会員 49 名、特別会員 2 名、再入会希望者 1 名について報告があった。

2. 2023 年度決算報告及び監査報告（寺田）

2023 年度決算について、会計監査が行われたことも含めて報告があり、承認された。監査にあたっては、年会費未納会員が 100 名を超える点について対応が求められた。なお、手続き上のトラブルを避けるため昨年度より「退会届」の様式を更新したこと、今年度より Web 上の大会申し込み欄に年会費カード決済の仕組みを整えたことが報告され、未納者には引き続き慎重に確認しながら連絡をすることが確認された。

3. 2024 年度第 2 次補正予算について（寺田）

2024 年度第 2 次補正予算について説明があった。「その他会計」のゼミナール・ワークショップ基金、国際交流基金、研究出版基金、学会基金については積立をせず、社会状況の変化により、事務局費（人件費）の適正化、HP 管理費の見直し、例会運営費、通信・郵送費の減額を行ったこと等の説明があり、了承された。学会基金の支出にある倫理ガイドブックの増補改訂版の増刷にかかわって、会員全員への配布を検討したが、従来通り新入会員のみ配布することとし、Web 上での閲覧方法の検討を行うことが確認された。国際交流基金については、学会業務に携わる国際交流委員の渡航費用について提案があり、予算案の増額が認められた。また、「一般会計項目」の「売上金」という表記について、誤解を招かないよう「学会誌入金」とする旨提案があった。

4. 2025 年度事業計画及び予算について（本多, 寺田）

本多事務局長より、2025 年度事業計画について説明があり、資料の通り了承された。

寺田会計担当理事より、2025 年度予算について説明があり、資料の通り了承された。

5. 第 55 回大会について

(1) 大会実行委員会より（野本由紀夫大会実行委員長→本多）

第 55 回大会について、大会実行委員会資料に基づき報告があった。施設使用料が高額なこともあり、とくに予算について実行委員会と調整を継続することが確認された。

(2) 常任理事会企画プロジェクト研究について (小川)

タイトル「GIGA スクールのこれまでとこれから」、登壇者、趣旨について報告があり、承認された。大会実行委員会企画とのすみわけ、生成 AI と GIGA スクールとの区別などについて意見があった。本年度は GIGA スクールの「これまで」に焦点化することが述べられた。

6. 2024 年度第 18 回音楽教育ゼミナールについて (小川)

タイトルを「データの扱いを学んで、査読に通る論文を書こう」とすること、オンライン開催とすること等について説明があり、了承された。今回は、基本的に会員のみを対象とすることが確認された。

7. 学会企画研究について (今川)

学会企画研究「生活史の中の音楽と音楽教育」について、資料に基づき説明があり、了承された。学会としての研究の重要性について共通理解されるも、本企画研究についての手続き、調査研究の期間等について意見交換があった。また、各地区の調査とりまとめ役として予定されている地区理事にわかりやすく伝えるための説明文の補足、研究構想図の作成の必要性等について話し合われた。前年度までのワーキンググループを終了し、新たな研究推進組織として立ち上げることが了承された。

<次回会議の予定>

第 2 回常任理事会 7 月 6 日 (土) 14:00~16:00 オンライン開催

第 3 回常任理事会 10 月 18 日 (金) 時間場所未定

2. 2024 年度 日本音楽教育学会 第 1 回理事会

日 時：2024 年 4 月 21 日 (日) 13:30~15:45

場 所：聖心女子大学マリアンホール内グリーン・パーラー

出席者：権藤、有本、本多、伊野、今川、今田、小川、菅道子、菅裕、寺田、中嶋、水戸、檜下、高見 (記録)、中地、西島、松永、三村、山下、野本由紀夫大会実行委員長

開会に先立ち、新年度に向けて権藤会長より挨拶があった。

【会務報告】 (2024 年 2 月 4 日以降) (本多)

2 月 4 日 2023 年度第 4 回常任理事会 (Web 会議)

2 月 12 日 2023 年度第 4 回編集委員会 (聖心女子大学)

3 月 18 日 ニュースレター第 95 号発行, 玉川大学表敬訪問

3 月 31 日 『音楽教育学』第 53 巻第 2 号発行

3 月 31 日 2023 年度会計決算

4 月 19 日 2023 年度会計監査会 (対面・Web 会議)

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について（本多）

2024年2月4日以降の正会員新入会15名，再入会希望1名，正会員申し出退会34名について承認された。2024年5月末に2年未納だった場合2023年度をもって自然退会者となる正会員49名・特別会員2名について，可能な範囲で声掛けを行うこととした。

（2024年4月20日現在 正会員1,548名，学生会員4名 名誉会員1名 特別会員4名）

◆正会員 新入会員（2024年2月4日常任理事会以降）

個人情報保護のため削除致しました。

正会員新入会 16名

2. 2023年度決算報告及び監査報告（寺田，島崎・伊藤→寺田）

寺田会計担当理事より2023年度決算報告が行われ，承認された。また，島崎篤子・伊藤誠会計監事より4月19日の会計監査会において適正な会計処理が確認できたとの報告があり，承認された。

3. 2024年度事業計画及び補正予算について（本多，寺田）

本多事務局長より，2024年度事業計画案の説明があり，承認された。また，寺田会計担当理事より，第2次補正予算案について説明があり，承認された。

4. 2025年度事業計画及び予算について（本多，寺田）

本多事務局長より2025年度事業計画案について，寺田会計担当理事より2025年度予算案について説明があり，承認された。

5. 第55回大会について

(1) 大会実行委員会より（野本）

野本大会実行委員長より、以下7項目について説明があり、承認された。

1) 実行委員会について

資料に基づき、委員会の開催状況、組織及び役割分担、実施計画等が説明された。

2) 大会実行委員会企画について

基調講演を小原一仁玉川大学学長にお願いしたこと、シンポジウム「音楽科教員の現状とこれからの教員養成：AI時代の音楽・教育」について説明があり、シンポジウム登壇者について承認された。院生フォーラムは開催地区の実行委員を中心に開催予定である。

3) 大会日程について

大会日程に関わり説明があった。情報交換会に臨時会員の方も多く残っていただけるよう、附属教育博物館の見学、スタインウェイ自動録音演奏の公演等も企画しているとの紹介があった。

4) 参加費について

参加費について、臨時会員については1日参加、両日参加とも5,000円、学部学生1,000円とすることが示され、承認された。

5) 大会HPについて

大会HPについて現在作成中、近日公開予定であることが説明された。大会日程等、主要な情報が随時アップされるとの説明があった。

6) 大会ポスターについて

今大会の大会ポスターは、シンポジウムのテーマにも関連させて、生成AIによる作品を用いるとの説明がなされた。

7) 大会会場について

大会会場となる玉川大学校舎・教室について写真付きで説明があった。併せて、施設使用料の試算と予算案が提示された。

(2) タイムスケジュールについて（小川）

小川企画担当理事より、上記「(1)-3)」を踏まえた「現段階での暫定的なスケジュール」が示され、承認された。今後、研究発表や共同企画等の数が決まってから調整を図る。

(3) 常任理事会企画プロジェクト研究について（小川）

「GIGA スクールのこれまでとこれから」としてプロジェクト研究のテーマが示され、承認された。

(4) 大会準備日程、大会参加費等について（本多）

大会準備日程案が示され、承認された。

大会参加費に関して以下の通り説明があり、確認された。

<会員> 事前申込：4,000円、当日：4,500円、学部学生：1,000円

※学部学生は、事前申込も当日も同額。

<臨時会員> 当日のみ：5,000円、学部学生：1,000円

(5) 大会プログラム作成スケジュールについて（菅道子）

大会プログラムの作成スケジュールについて説明があり、承認された。

6. 2024年度第18回音楽教育ゼミナールについて（小川）

8月24日開催の「データの扱いを学んで、査読に通る論文を書こう」に関して、オンライン開催、基本的に会員のみを対象とすることについて説明があり、承認された。

7. 編集委員会規定の改正について（今川）

編集委員会規定第4条に関して、『音楽教育学』および『音楽教育実践ジャーナル』は、学会が契約した国内外のオンラインデータベースを通じて、その内容が全文公開される」ことを新設し、それ以下の条項番号を繰り下げることが示され、承認された。

8. 会長・理事選挙実施要領の改正について（伊野）

選挙電子化に伴う選挙実施日程の改善のため、従来、改選前年度5月末日に行っていた名簿の確定について、「1 選挙資格者・被選挙資格者名簿の確定は、改選前年度の4月末日に行う」と改定する旨説明があり、承認された。

9. 学会企画研究について（今川）

学会企画研究推進WGの今川座長より、学会企画研究「生活史の中の音楽と音楽教育」について資料に基づき説明があり、これまで学会に蓄積されたデータを活かし、学会として量的・質的な研究を進め、新たに蓄積していくという取り組みを進めていきたい旨、説明があり、承認された。推進にあたって新たな組織を立ち上げ、まず、昨年度のプロジェクト研究で実施した調査を土台として研究計画を策定し、各地区と連携しながら学会による研究を開始することが確認された。

10. 育志賞の推薦について（榎藤）

推薦の申し出がなかったため、本学会から推薦は行わないこととした。

11. 2024年度日本音楽教育学会参事の委嘱について（本多）

2024年度参事について松本哲平会員を推薦することが承認された。引き続き検討する。

12. 大会開催輪番について（榎藤）

第56回大会については九州地区、第57回大会は関東地区で開催予定であることが資料に基づき説明され、承認された。

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（今川）

対面による第1回編集委員会を5月19日に聖心女子大学にて開催予定。委員長、副委員長選出の予定。

現在、『音楽教育学』投稿論文4本の査読中。研究報告の修正再審査1本、『音楽教育実践ジャーナル』自由投稿5本、特集投稿6本が寄せられており、審査を開始している。

(2) 国際交流委員会（今田）

第1回国際交流委員会において今田匡彦委員長、金奎道副委員長が選出されたとの報告があった。

(3) 広報委員会（中嶋）

第1回広報委員会において笹野恵理子委員長が選出されたこと、ニュースレター93、95号での印刷所によるミスの説明、ニュースレターのML配信を3月号で試行すること、今後のニュースレターの発行・方法に関する検討を行っていることが報告された。北海道地区、東北地区に97号の「会員の声」の執筆者が依頼された。ML配信になった場合の個人情報の扱い等について確認がなされた。

(4) 選挙管理委員会（山内→榎藤）

第1回選挙管理委員会で引継ぎ事項の確認が行われ、山内雅子委員長、村上康子副委員長が選出されたことが報告された。

(5) 音楽文献目録委員会（大田→本多）

4月4日に委員会が開催され、新委員長が選出されたこと、遡及入力44巻から41巻まで終了したこと、論文の海外版への採択について見直しを図っており、音楽教育分野は採択率が17%で最少であること等が資料に基づき報告された。

(6) 教科教育学コンソーシアム（伊藤→本多）

3月10日に第4回シンポジウムが開催されたこと、機関誌に投稿を行っていただきたい旨、報告と呼びかけがあった。詳しくは教科教育学コンソーシアムのWebサイトに掲載。

(7) 資料の保存・アーカイブ化WG（杉江→榎藤）

2022/2023年度WG（メンバー：杉江座長、榎下、嶋田、塚原、山下の各委員）の作業報告として、本学会において実施された4件の調査資料の整理が完了したこと、データファイル一式が学会事務局に保管されたことが報告された。今後、学会として、HP等での公開の方法を検討していく。

(8) 倫理ガイドブック編集委員会（榎藤）

本学会倫理ガイドブックに関してリニューアル作業が進行している旨、報告があった。これまで通り新入会員に配布を行い、学会HPでも増補改訂版（2024）を閲覧できるよう、公開の方法を工夫していく予定である。

2. 地区例会報告（寺田・今田・伊野・中地・松永・高見・三村・菅裕）

北海道地区 3月23日 北海道教育大学札幌駅前サテライトで開催。3件の発表、12名の参加があった。

東北地区 3月7日 青森明の星短期大学で開催。6件の発表、15名の参加があった。

北陸地区 3月9日 オンライン開催。8件の発表、26名の参加があった。

関東地区 2月24日 立教大学で開催。4名から3件の話題提供、76名の参加があった。

東海地区 3月10日 CSA 会議室で開催。9件の発表、25名の参加があった。

近畿地区 3月10日 奈良教育大学で開催。5件の発表、28名の参加があった。

中四国地区 3月20日 香川大学で開催。17件の発表、27名の参加があった。

九州地区 3月16日 佐賀大学で開催。6件の発表、27名の参加があった。

<次回会議の予定> 第2回理事会 10月18日（金） 時間・場所未定

5 事務局より

事務局長 本多 佐保美

1. 第55回大会事前申込について

学会HP及び大会申込Webサイトをご覧ください。

研究発表・共同企画の申し込み及び要旨登録〆切：2024年5月31日（金）15:00

大会参加事前申込〆切：2024年9月20日（金）15:00

※大会参加費（事前）は、会員・特別会員4,000円、学生会員（学部）1,000円です。

2. 年度会費納入のお願い

会費の期限内納入にご協力ください。会費未納の場合、大会での発表、送付物、論文投稿などに支障が生じます。2年間会費を滞納すると自然退会になります。会費納入後、約2週間で事務局より年会費振込の確認メールが自動送信されます。メールが届かない場合は事務局までご連絡ください。なお、申込Webサイトから年度会費も納入することができるようになりました。ぜひご利用ください。ただし、会費納入後、マイページの更新・学会からの入金確認メール受信までには、少し時間がかかります。クレジットの場合、決済完了メールでご確認ください。

3. 会員情報（所属先・住所など）の変更について

所属先・住所等に変更があった場合は、速やかに修正登録をお願いします。会員情報の変更は事務局では受け付けておりません。学会HP「会員専用ページ（「マイページ」）」からご自身で変更していただきますようお願いします。メールアドレスが未登録の方は「マイページ」に入ることができませんので、事務局まで至急メールアドレスをご連絡ください。

4. 事務局について

事務局は火・木（10:00～15:00）が開局時間です。今年度も宇田川さん、亀山さん、徳山さん、若尾さんに事務局業務を担当していただきます。どうぞよろしくお願いします。

.....【編集後記】.....

コロナ禍を経験し、電子化・デジタル化が身近なものになりました。現在、ニュースレターもML配信の方向で準備を進めております。本誌が会員の皆様にとって有益な情報の共有や、様々な想いや意見の交流の場になるよう、笹野委員長の下、上野・鈴木・中嶋・長山の5名の広報委員で精一杯取り組んでまいります。2年間よろしく願いいたします。（上野智子）

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206 Tel. & Fax.: 042-381-3562

E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

郵便振替口座：00110-6-79672, 日本音楽教育学会

他金融機関からの振込：ゆうちょ銀行、〇一九（ゼロイチキョウ）店、当座0079672, 日本音楽教育学会

開局日時：火・木 10:00～15:00

事務局員：宇田川・亀山・徳山・若尾